

第14・15
合併号

平成26(2014)年10月発行

南風

MINAMIKAZE

「南」は母校のある南港を、「風」は便りに通じ、
「南港からの便り」という意味をこめて名づけました。

—発行所・連絡先—

相愛大学人文学部同窓会

〒541-0053

大阪市中央区本町4丁目1-23

TEL/FAX (06)6261-2040(直)

E-mail sj-dosokai@soai-jinbun-dosokai.org

URL <http://soai-jinbun-dosokai.org/>





会長挨拶

会長 一階 由香

同窓会員のみなさま、たいへん長らくご無沙汰いたしました。

昨年度は、大規模の総会を開催し、多くの会員のご参加をいただきました。その後、「燃えつき症候群」というわけではありませんが、会報発行がこの時期になりました。

無事、というか、会員各位のご協力の下、学部創設30周年記念に係る大きな事業を成し遂げることができました。紙面をお借りいたしまして、あらためて御礼申し上げます。

もう一年…まだ一年…。捉えかたはそれぞれでしょうが、学部は30周年を迎えたわけです。そして、その一年一年の積み重ねの中に、多くの人と人との結びつきを、縁(えにし)を与えてくれました。

大学を卒業して以来、ずいぶん長い月日が流れました。最近の新入社員はみなさん“平成生まれ”です。先

日、「僕、昭和は生きてませんから…」と言われました。バブル崩壊後に生まれた世代が社会人になり、阪神大震災を知らない世代が成人式を迎え…時代がどんどん進んでいます。そうして新しいめぐり逢いが、どこかに待っていてくれるんですね。

仕事から、自分より若い人たちと接することが多いので、いつまでも気持ちだけは必要以上に若くいられます。でも、新入社員を指導するような仕事もしています。中間管理職というのは橋渡しの立場でもあります。人と人とを結びつける橋のような仕事です。なかなか思うようには進んでいきませんが、自分も新しい人と出会い、新しい関係を結んでいけるように進んでいきたいなあと思っています。

また、春が来たら、新しい同窓会員と出会えます。くり返しの春…



ご挨拶とご報告

相愛大学学長 金 児 曉 嗣

平素より、一階会長をはじめ人文学部同窓会の皆さまには、相愛大学の充実・発展のためにご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。今年で結成27年目を迎える人文学部

同窓会は、卒業された皆さまが相互に親睦を図ると同時に、長年の知識や経験を活かして本学を支えてくださっていること、またそれぞれの地域社会において貢献されていること、まことに心強く思っています。

近年、我が国の大学はその特色と個性をどこに置くかを明記し、それを具現化することが求められています。昨年の大学評議会において、相愛大学は地域に貢献する大学をめざすことを決定しました。

人文学部では、各種公開講座を開催することによって市民の生涯学習の機会をつくり、また仏教文化専攻の教

員を中心に市民仏教講座を開催して浄土真宗のみ教えに触れていただくなど、大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に還元する取り組みを行っています。教員が高校に出向いて実施している出前講座も地域社会への貢献の一環であります。

私たちは日々の暮らしの中で、絆の有難みを身にしみて感じるが多々ありますが、卒業生の人脈を大切にしつつ、建学の精神である「當相敬愛」（お互いに敬い合い、慈しみ合う）を肝に銘じ、教職員と学生、学生同士の人間関係を豊かにし、学生が満ち足りた大学生活を送れるよう、地域の人たちにも親しまれる大学をめざし、教育の使命と責任を果たしていきたいと存じます。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。



学部長挨拶

人文学部長 橋 元 淳 一 郎

四月より学部長を勤めさせて頂いております。本学に着任してから二十年を超えましたが、その間に大学を取り巻く環境は激変致しました。そして、この厳しい状況は、今後益々加速すると予測されます。そんな中で、僅かの期間、微力ではありますが、学部長として全力を尽くすつもりでおります。

人文学部では、一昨年より人文学科一学科体制を取っております。その最大の目的は、リベラル・アーツとしての人文学を、学生の皆さんに幅広く学んで頂くためです。

具体的に書きますと、人文学科には六つの専攻（コース）を設けております。

(一) 日本文学・歴史文化専攻

(二) 大阪・サブカルチャー専攻

(三) 仏教文化専攻

(四) 心理専攻

(五) 国際コミュニケーション専攻

(六) ビジネス・社会専攻

このような多彩な分野を同時に学べるのが、人文学科の大きな特色です。これらを学科として分離せず、入学してからの二年間はどの専攻の科目も自由に受講出来るようにし、三年次になる時点で自分の進みたい専攻を選ぶという独自のカリキュラムになっています。

この新たな人文学部から、日本の将来を担う人材が輩出されることが我々教職員一同の願いです。皆様の暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先生から



桑原義登
先生

卒業生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。
最近の社会情勢を見ますと科学が発展して便利な世の中になっていく反面、児童虐待、いじめ、若年層の二一トや閉じこもり及び中高年の自殺など、心に関わる問題が大きくなってきています。人は心理的葛藤体験を乗り越えて成長していくものと思っていますので、臨床心理的知見に基づいた支援がますます必要になってきていると考えます。

このような国民のニーズに応えるために、国家資格である「公認心理師法案」が議員立法で6月の国会に上程されました。秋の国会での継続審議になる見込みです。この法案が成立すると2年以内に施行されるために、今後、養成校として定められたカリキュラムに

沿った再編が計画される大学が多くなると思います。

相愛大学では人間心理学科等の募集停止があり、皆さんにはご心配をおかけしてきましたが、人文学科の中に今までの学科の伝統を受け継いだ6つの専攻ができています。心理専攻も復活して学生の入学も増加してきていますので、今後の発展を期したいと思います。

私は相愛大学にお世話になり10年目を迎えました。今年度で定年退職を迎えることになりました。退職後は大好きな農業をしながら、子どもシェルターなどの地域支援活動や対人関係の現場で頑張っている方に対する心理面からの後方支援をして行くつもりです。スーパーバイズやカウンセリングなどの支援が必要なきにはご連絡ください。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。人文学部に人文学科が始動して2年目に入りました。私は人文学科の国際コミュニケーション専攻の授業を主に担当すると同時に、文化交流学科（3年生以上）の教員でもあります。

今の人文学部には、主にアジア諸国からの留学生が随分多く在籍しています。同じ教室の中で様々な文化的背景を持つ学生が机を並べ切磋琢磨する姿は、実は私の理想の授業風景でした。

このような学生に対し、授業内外でアクティブなプログラムを実施しています。例えば、学外研修として、今年は国立民族学博物館に出かけました。また先日は、「通訳入門」のクラスで教室を飛び出し、学校案内の日

英通訳に挑戦しました。さらに、英語の力を伸ばしたいという学生を対象に英語での議論を楽しむプログラムを実施したり、英国の大学の遠隔授業を受講できるe-learning等を展開中です。

学生には、学問に楽しく取り組み、深く学んでほしいと思っています。よく尋ねられるのですが、私の座右の銘は“The sky is the limit (可能性は無限大)。” 私自身もチャレンジの毎日です。



木下有子
先生



荒井真理亜
先生

2014年4月に人文学部に着任いたしました。私は人文学部の卒業生です。

私が学生だった頃の人文学部は、女子学生しかいませんでした。今は男子学生も多く、留学生も増えています。「華やか」というよりも「賑やか」になって、浦島太郎の気持ちです。

しかし、学生はみな素朴で、一人ひとりが原石のようです。磨いてみたら何色に光るかわからない面白さがあって、意外な発見の毎日です。学生だった頃私も友人たちにそういう驚きを感じていました。「今の学生も私たちの時とそれほど違いはないのかも」と思ったりします。人文学部のカラーは健在ということでしょうか。

私の専門分野は日本の近代文学です。大学を卒業して以来、「上司小剣」という作家を研究しています。

上司小剣は、今ではあまり知られていませんが、大正期に京阪情緒溢れる秀作を次々に発表し、活躍した作家です。

私が上司小剣に出会ったのも相愛大学です。文学の授業で「鰐の皮」という作品を読んだのがすべての始まりでした。大学生の私には小説の味いはわかりませんでした。その時に試食した〈鰐の皮〉の味が忘れられず、今に至ります。その後、私は「鰐の皮」という小説の魅力にも気づくのですが、その話はまたの機会にいたします。実生活は作るより食す方が得意なのですが、机上では「鰐の皮」のように〈食〉を描いた文学作品をどう料理しようか、思案中です。

私にとって、教え子であり、後輩でもある学生たちと一緒に、人文学部を盛り上げていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

Hello! My name is Johan Alsdorf. It is my pleasure to be working as a new member of the International Communication staff in the Department of Humanities. Whenever people ask me where I am from, my answers tend to get complicated. My name is German, but I do not know any German, though I wish I did. By citizenship, I'm American, but I have some German, French, and Japanese blood in me. I have lived in many places, but I consider Kobe and Los Angeles to be my hometowns. Growing up, I attended an international school where I had classmates and friends coming from a variety of different countries and all sorts of backgrounds. In short, my culture became and is a hybrid of several cultures, especially Japanese and American. Later, when I started working in the Japanese educational system, I started pondering what it means for someone to be "international" or "globalized." What do people really mean when they talk about understanding other cultures? Ethnic dances, costumes, art, architecture, food, or anything else that can be seen or touched are only the "tip of the iceberg." These visible differences usually do not lead to serious problems and/or conflicts between people. That is because people easily see and recognize them as being part of the

cultural difference. It is the "hidden differences" that can lead to friction and conflict between cultural groups. Like a huge iceberg, most of which is underwater, the greater part of our culture is not visible. Culture includes values, logic, humor, justice, morality, relationships... the list is endless. A lot of what we consider our common sense is a part of our culture. For example, in Western cultures, if you do not look at the person you are talking to, people will have a bad impression of you. However, in some cultures, it is considered rude to look someone in the eye when they are talking to you. Human beings tend to attribute these "hidden cultural differences" to personality flaws. This is just a part of human nature. Human beings have a tendency to believe that their culture is the best without objectively questioning what lead them to this conclusion. We teachers especially need to keep in mind that our values, beliefs, ways of doing things, etc. are not absolute. They are merely reflections of our own cultural background. Only by understanding and becoming aware of these hidden aspects of our own culture, can we truly recognize and respect our cultural differences.



アルスドルフ・ヨハン
先生



第1部

相愛大学人文学部創設30周年記念シンポジウム

大阪のインテリジェンス

難波堂からグランフロント大阪まで、大阪の地味は濃厚です。少しでもそこを「奥掘」すれば、溢れ出す大阪文化が所収しと輝きます。昨年のシンポジウムで好評を博した「大阪のインテリジェンス」を、今年も盛りだくさんに開催です。演説と落語とトークセッション。大阪ならではの顔ぶれが、真夏の午後にとぎめきまします。

白熱のトークセッション!!

落語×大阪学!

浪曲×大阪文化!

主催：相愛大学 企画・制作：相愛大学人文学部 協賛：相愛大学人文学部同窓会

7月27日(土) 会場：ホテルモントレグラスミア大阪 21階 スノーベリー 大阪駅前35分バス(日)15時30分

13:00~15:00(12:30開場)

【出演】 春野 恵子
【落語】 桂 雀々
【トークセッション】 桂 雀々・春野 恵子・前垣 和義・釈 徹宗
※トークセッションの進行は春野恵子氏による進行となります。この場、各々ご参加ください。

【アクセス】
●JR[難波駅]より徒歩約1分
●地下鉄[南港線]「なんば駅」北西改札口30番出口直結
●地下鉄[千日前線]「なんば駅」西改札口より徒歩約1分
●地下鉄[中央線]「なんば駅」北西改札口北西改札口より徒歩約5分
●阪神・近鉄[大阪難波駅]南改札口より徒歩約1分
●南海[難波駅]3F北口から徒歩約1分

ホームページから事前申込ができます。 www.soai.ac.jp 相愛大学 検索

告知ポスター



桂雀々師匠による落語



トークセッション



春野恵子師匠の浪曲



学生さんの紹介

相愛大学人文学部

日付：平成25(2013)年7月27日

人文学部創設30周年記念シンポジウム
「大阪のインテリジェンス」

平成25(2013)年7月27日、ホテルモントレグラスミア大阪において、人文学部創設30周年記念シンポジウム「大阪のインテリジェンス」が開催されました。この「大阪のインテリジェンス」は人文学部が数年前からシリーズで行っているシンポジウムです。今回は学部創設30周年記念という特別催しとして同窓会の協賛開催といたしました。同窓会員はもとより一般参加も多く、大盛況でした。

ゲストに桂雀々氏、春野恵子氏をお招きし、前半は落語に浪曲、後半は釈徹宗、前垣和義両教授をコーディネーターとしたシンポジウム形式のお話。みなさんメディアへの露出度の高い面々ですから、お話もおもしろく、さすがに「引き出しが多いなあ」と実感し、時間の経つのも忘れて、聞き入っておりました。

第2部

創設30周年記念

場所：ホテルモントレグラスミア大阪

人文学部同窓会
第7回総会・懇親会

シンポジウムの後は、同窓会の総会及び懇親会です。総会は滞りなく議事は進行しました。ただ、今回特別だったのは、「新愛称」の募集に関するお願いがあったことです。従来の「アミーカの会」については、女子大時代の名残を感じさせるものであり、大学も共学になって久しいことから、女性名詞の名称に異議を唱える声が上がっておりました。そこで、この30周年を機に新名称を考えようということになりました。当日の会長あいさつでも申しましたように、より恒久的で、親しみのある名称をと、広く募りました。

総会というどうしても堅苦しいイメージは否めませんが、あとに控えた懇親会を楽しみに議事進行、審議承認をご確認いただきました。

懇親会では音楽業界で活躍中の同窓生2組「monica ♪」「CHECK DoLL」をお招きし、花を添えていただきました。これからも、各分野で活躍中の同窓生をお招きして懇親会を催すことができたらうれしいです。お知り合いがありましたら、同窓会にお知らせください。今後も広く同窓生と歩む同窓会でありたいと思います。

当日の参加者数は、学長をはじめ先生方31名、同窓生および関係者60名、当日お手伝いをしてくれた在学生7名の、全98名の盛況な総会・懇親会となりました。今回ご都合のあわなかったみなさまも、ぜひ次の「第8回総会・懇親会」にはお越しください。お待ちしております。



新愛称決定

新しい愛称への変更を第7回総会で議決後、新愛称案を募集し、お寄せいただいた案に役員・幹事の案を加えた新愛称候補への投票を、2014年8月まで同窓会のホームページにてお願いしておりました。その結果、新しい愛称が大学構内の木々のイメージにちなんだ次のものに決定しました。

新愛称選定に際してご協力くださった方々に感謝申し上げます。これまでの愛称「アミーカの会」と同様に、新しい愛称にも親しみをもっていいただければ幸いです。

ポ プ ラ

頑張る卒業生

～ 無から有へ～

長安 蘭銑



私は今、書家として関西を中心に作品を発表したり、書道教室を主宰し、書の普及に取り組んでいます。大阪の展覧会でも作品を発表していますので、作品をご覧になられた方もいらっしゃると思います。

2011年にはご縁があって、フランスとの文化交流のお話を頂きました。1年間の構想期間を経て、2012年にフランスにて、グループ展を開催させて頂くことができました。少しでも日本らしさを感じてもらおうと、調和体の軸装作品ばかりを発表し、好評を得ることができました。欧州の方々に、日本の書を知っていただく良い機会になったと思います。さらに、2013年には、教育委員会などの後援を受け、初めての個展を開催させて頂きました。稚拙な作品ばかりの展示となりましたが、3日間の会期中に300人以上の方々にご来場いただき、多くの激励をいただきました。

私は、これまで様々な人との出会いを重ね、成長してきました。これからも、多くの人との出会いが、成長を促してくれるものと信じています。今後とも未熟な私に、何卒ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

(日本文化学科 2007年卒業)



クラブ便利 (伝統芸能同好会)

伝統芸能同好会です。

伝統芸能同好会は前年度からの新団体です。

能楽、歌舞伎、文楽、落語などの伝統芸能は私たち20代は「難しそう」「言葉がわからない」など「観ても楽しめない」というイメージがあります。私はそんなイメージを払拭したいです。また「興味があるけど一人で行くのはなあ」という方たちの窓口になる団体を目指し日々奮闘しながら活動中です。主な活動は鑑賞することです。他にも「他力本願.net」というホームページの「仏女生活」というコンテンツで「伝統芸能鑑賞レポート」を連載しています。新団体ということで右も左もわかりませんが、これから大学内で「伝統芸能っておもしろい!」ということを広めていきたいです。伝統芸能についてプレゼンを行ったり、鑑賞するだけではなく実際に体験し発表もしたいと考えています。これからの活動を考えると楽しみで仕方ありません。



学部の思い出

北口いく恵



人文学部創設以来、日本文化学科合同研究室で助手として勤務させて頂き、昨春、介護のため退職致しました。

合研で先生方が一緒に昼食をとったり、学生と談話したりというような大学はとても珍しい光景ではないかと思います。思想・歴史・文学を基盤にした学科の特性もあり、先生方で交わされる知的な雑談は私の至福のひとつでもありました。卒業生が近況報告や相談、子供連れで来訪してくれるのも嬉しいことでした。当然のことながら自分は確実に年をとっていくのに毎春、入学する学生は若々しく、たくさんの感動・刺激を受けました。

点字や手話、中国語等学生の必要性に応じて浅学ですが、多様な学びを得たこともありがたい経験でした。

いまは文学好きのお姉さんが歳月を経てカルチャーおばさんになり、ようやく大学を卒業した気分で、人生初の専業主婦生活に突入しました。介護の合間にできる次の人生の目標はまだ見つけられずにいますが、部屋の片付けでかつて購入した写本の翻刻を思いついたり、写真や資料の整理に時を忘れるこの頃です。

相愛での多くの学びや出会い、ご縁に心から感謝の日々です。学部の形態は改革されていますが、母校の発展を人文学部の一ファンとして卒業生の思いで見守っております。長い間、ありがとうございました。

伝統ある学部 まっさらな学科

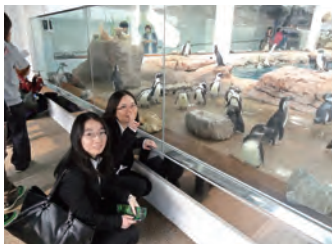


社会的自立性を身につけ、文化に対する深い洞察力を供えた
地域社会の発展に貢献しうる柔軟かつ汎用性を有する人材を養成します。



人文学部二回生
堀江はな

学生スタッフとして様々な経験をさせてもらい、引っ込み思案だった私が、積極的になり自信がついていくのがわかりました。



この大学に入ってからよかったと思います。大学の雰囲気が良いし、先生方や学生たちは優しいし、親切です。また、一、二回生の時には、様々な事を勉強出来るので、良かったと思います。♪



人文学部一回生
LEHUONG THON (レ・フントン)



人文学部二回生
荒木真琴

相愛寄席では、音響という影の立役者として参加できたことで、新しい発想、考え方、準備の重要性を体で感じることができました。この経験を来年に、または別のボランティア活動にも活かしていけるように、精進していきたいと思います。



● イベント情報 ●

平成26年度相愛大学公開講座「人文の時 Part Ⅲ」

日時：11月1日(土) アルスドルフ・ヨハン

11月29日(土) 西迫 成一郎

2月7日(土) 山本 幸男

14時～16時

場所：相愛大学本町学舎F604 ※先着80名当日受付

名越康文客員教授による「宗教心理学」

— 仏教で心理世界を再構成する —

日時：不定期金曜日、18時30分～20時30分

場所：相愛大学本町学舎F604 ※要事前申込

岡田斗司夫客員教授による集中講義

日時：12月24日(水)、25日(木)、26日(金)

場所：相愛大学本町学舎F604 ※要事前申込

来年度も桂春之輔客員教授による「日本文化特殊講義3」、桂文我客員教授による「上方落語論」を開講予定

※詳細は相愛大学HP、人文学部ブログをご覧ください。

※ 人文学部公式キャラクター紹介 ※



ぶんぶんくん プロフィール

生みの親：人文学部人文学科

誕生日：2013年4月4日

性格：働き者でさみしがり屋なので
みんなと友達になりたい

特技：ダンスで仲間をつくること

趣味：読書 好きな物：はちみつ

ぶんぶんくん紹介文

ぶんぶんくんは、人文学部のオリジナル・キャラクターです。マンガ家の一ノ瀬かおるさんによって生み出されました。ぶんぶんくんは心から人文学を愛しています。どうぞよろしく願いいたします。

人文学部合同研究室お問い合わせ先

❖ 日本文化・社会デザイン卒業生

TEL 06-6612-6253

❖ 英米文化・文化交流卒業生

TEL 06-6612-6252

❖ 人間心理・仏教文化卒業生

TEL 06-6612-6247

❖ 国際交流部

TEL 06-6612-5933

E-Mail ryugaku@soai.ac.jp



お問い合わせ先：相愛大学人文学部合同研究室 E-mail: jinbungakubu@soai.ac.jp

同窓会からのお知らせ



同窓会のホームページが新しくなりました

総会の折にもお知らせいたしましたが、同窓会のホームページを昨年6月にリニューアルし、同窓会からのお知らせをご覧いただけるようになり、今年1月にご住所変更をホームページ上のフォームからお届けいただけるようにする等、内容を更新いたしました。

なお、URLが変更になっておりますのでご注意ください。

同窓会ホームページのURL: <http://soai-jinbun-dosokai.org/>

住所・氏名の変更について

学科名・卒業年・氏名(旧姓)・電話・FAX番号・郵便番号・住所・会員番号(会報郵送時の封筒に記載)をこれまでと同様、同窓会室宛にお知らせください。ハガキ、FAX または同窓会ホームページのご住所変更フォームにてお願いします。(同窓会ホームページからもお知らせいただけるようになりました)

〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-23 相愛学園内同窓会室 / FAX 06-6261-2040

着任・退職

平成24年度 ご退職

孫 久富
北 口 いく恵
嘉 戸 一 将
三 好 幸 治
杉 本 節 子

平成25年度 ご退職

カックス・テリーサ
鳥 井 正 晴
山 本 和 明

平成26年度 着任

荒 井 真 理 亜
アルスドルフ・ヨハン

敬称略

訃報

・平成26年8月30日ご逝去 小野功龍先生(名誉教授)
平成6年4月～平成14年3月 学長
平成25年春の叙勲 瑞宝中綬章受章
平成25年度 第70回日本芸術院賞・恩賜賞受賞

・平成26年8月ご逝去 カックス・テリーサ先生

・平成26年8月21日ご逝去 大久保昌一先生

先生方のご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

合 掌

中学・高校入試イベント予定

- 11月15日(土) 高校入試説明会
高校入試対策講座
- 11月29日(土) 高校入試説明会
高校入試対策講座
- 11月30日(日) 中学第二回プレテスト
中学入試説明会
- 12月6日(土) 中学・高校入試個別相談会
- 12月10日(水) 中学・高校入試個別相談会
- 12月13日(土) 中学・高校入試個別相談会
高校入試対策講座



過去帳納め

同窓会にお知らせがあった物故者のお名前(同窓生)を、毎年2月に大谷本廟の学園関係者過去帳に記入し、納めさせていただいております。

編集後記 editorial note

昨年は会報の発行をお休みしたため、今号は合併号となりました。昨年の総会には、先生方や多数の同窓生の方々にお越しいただき、ありがとうございました。また、同窓会の新愛称に関してご協力くださった方々に御礼申し上げます。

なお今号の「南風」からはご希望の会員の方へのみ郵送しております。もしも郵送をご希望でまだ申し込みがお済みでない方は、同窓会のホームページのお問い合わせフォームからお知らせください。(中村)

大学入試情報(人文学部)

入試種別	出願受付期間	試験日
推薦B入試	11月25日(火)～12月5日(金)	2014年12月14日(日)
一般A入試	1月14日(水)～1月23日(金)	2015年2月1日(日)
一般B入試	2月10日(火)～2月19日(木)	2015年2月26日(木)
一般C入試	3月3日(火)～3月17日(火)	2015年3月23日(月)

編集委員

一階 由香 大迫 秋穂 尾崎 吉成 木曾加奈子
小松 愛 竹田美奈子 中村 則子 森本 裕子
安田 圭佑 山田 容子 (五十音順)